

# 新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和4年度分）

## 【施設の概要】（所管部記入）

施設名	新座市児童センター及び福祉の里児童センター			
所在地	新座市本多1-3-10、新座市新塚1-4-5福祉の里3階	所管部署	こども未来部こども支援課	
制度導入年度	平成22年度	選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 / <input type="checkbox"/> 指名	
指定管理者	名称	特定非営利活動法人新座子育てネットワーク	所在地	新座市菅沢1-4-5
	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5年間）		

## 【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	<p>令和2年度から続く新型コロナウイルス感染に伴う利用制限下で、感染予防対策を講じながらも、子どもの健全育成のため、遊び・学び・ふれあいの三つの柱を基本に、0歳から18歳までの子どもの心身の発達に応じたきめ細かな事業運営や支援を行った。段階的な利用制限の緩和に伴い、混乱が生じないよう利用者に周知を図るとともに、安全に配慮した魅力的な事業の展開に努めて、利用者数の回復を図った。事業実施に際しては事業目的を明確にし、実施後は評価と見直しを合わせて行った。事業は①子どもの健全育成事業（子どもの遊びと学び事業（全学年、小学生、乳幼児の対象別））、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業（母親・父親）⑦地域連携・異世代交流事業、⑧情報提供事業、⑨運営協議会等の9分野にわたり、令和4年度は2館合計で開催数2,965回、延べ参加者数29,907人となった。また、来館者数は2館合計58,926人だった。1カ月の平均利用者数は4,911人で、昨年度の4,076人から20.5%増加した。</p>
特筆事項	<p>※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載</p> <p>令和4年度も新座市児童センターと新座市福祉の里児童センターの両館で、効率的な運営を図るため、情報の共有や事業連携、職員研修の強化に努めた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者の安心・安全を最優先とした施設運営をしながら、三密を避けた遊びの提供や段階的な事業再開を行った。また、新座市の財政非常事態宣言発令に伴い、人件費や消耗品費、講師謝金等の大幅な削減による影響も大きかったが、限られた状況・予算内で最大限の効果が得られるよう創意工夫して事業を展開した。新型コロナウイルス感染症対策予算で衛生用品等を購入し、1日4回の消毒を効率的に行えるよう努めたほか、予算管理表を別途作成し、支出状況の把握と適切な予算管理を行った。また、感染状況の変化に応じて、利用定員の段階的な引き上げや利用時間の拡大などの対応を柔軟に行った。</p> <p>●令和4年度の中高生の利用者数は両館合計で3,226人だった。コロナウイルス感染拡大の緩和により、授業や部活、学校行事等が再開され、環境の変化にさらされ続けている中高生たちに対し、ありのままの姿で思い思いに過ごせる居場所づくりを意識的に実施した。新座市児童センターでは2か月に1回程度「中高生のきまぐれカフェ」を開催した。ボードゲームやクイズ大会、ハロウィンやクリスマス等季節のイベントになぞらえたテーマで実施し、中高生同士・中高生と職員が交流する機会を提供した。福祉の里児童センターでは、昨年度に学校や友人関係で悩みを抱えていた高校生が、4月から転入した通信制高校の様子やアルバイトについての悩みを話すために定期的に来館していた。</p> <p>●障がいや低出生等によりゆっくり育つ子どもと保護者がつどい、交流する事業を継続開催した。新座市児童センターでは特別ニーズサロン「ポレポレくらぶ」を開催し、子どもを遊ばせながら、親子の関わり方について専門家から助言をもらったり、先輩ママ・パパから話を聞き、悩みを共有する機会を提供した。福祉の里児童センターでは、専門家を交えて子どもの発達面で不安なことを話し聴き合う「ピアサロン『はあもにー』」を開催。子育て支援コーディネーターや作業療法士の方に直接疑問や不安を相談できる機会とした。</p> <p>●平成27年度から取り組みを始めた子どもの貧困対策事業では、法人本部の強力な寄付品等の調達に支えられ、子育て中のひとり親家庭・経済困窮家庭等に無償で食品や日用品を配付する「フードパントリー」を継続して開催した。小学校の長期休みに合わせて年4回開催し、両館合計379家庭へ配布。実施にあたっては法人本部の全国・地域のネットワークを駆使し、地域の商店・事業所・ボランティア団体等との連携も密に、利用者と地域・職員がつながれるような働きかけを心がけた。フードパントリーの利用家庭は半数以上がひとり親家庭であった。このほか、子育てグッズの交換会「はあとBOX」を開催し5,939人が利用したほか、法人本部との連携する「レッドボックス」から生理用品をの無償支援を受け、来館児童への生理用品の無償提供の環境を整えた。</p> <p>●両館職員が児童センターにアクセスしづらい地域の公園に出向き、遊びを提供するアウトリーチ活動「どこでも児童館」は、昨年度より回数を増やし10回開催し、延べ605人が参加した。チラシによる周知活動を積極的に行い、会場近くとなる公園の近隣小学校に配布したほか、夏休み前には市内全児童への配布も行った。地域との連携強化を図り、北部第2地区地域福祉推進協議会、南部地区地域福祉推進協議会と共同開催が実現。</p>

**【総合評価】**

**指定管理者の自己評価**

総合評価	S	<input checked="" type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	児童センターの設置目的を理解し、利用サービスの向上、組織および施設の管理、経費の取扱い等に工夫しながら、適切且つ誠実に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染拡大の防止を継続しつつ、市内の感染者数や国の動向に注視し、利用制限の緩和に柔軟に対応した。			
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入			

**市の評価**

総合評価	S	<input checked="" type="checkbox"/>	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	<input type="checkbox"/>	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	<input type="checkbox"/>	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	<p>利用者が、当日の空き状況やイベント情報など見やすいホームページの整備やチラシの発行など効果的な広報に取り組むとともに、コロナ禍での利用制限がある中でも、施設の特性を活かした事業展開を行うなど、利用サービスの向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、日常的に館内外を点検し、危険箇所や汚損・破損箇所がないか確認し、発見した場合は市にすぐに報告し、職員で対応できる部分はきちんと対応し、必要に応じて業者に修繕してもらうなど、児童の事故防止のため適宜適切な対応を図っている。施設の老朽化に伴う空調設備の不具合にあっては、館内の温度や湿度等を定期的に計測し、児童が熱中症にならないよう対策を図りつつ、利用者に丁寧な説明を行うなど、安全な環境整備に努めている。</p> <p>このように、誰もが楽しめる児童センターになるようサービス向上に努めるとともに、児童の安全に配慮した環境整備の取組は評価できる。</p>			

**【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】**（指定管理者記入）

令和5年度に新型コロナ感染予防対策の制限が解除されるのを受け、児童の遊び環境を再構築し、施設外のアウトリーチ活動にも力を入れます。

両館ともに老朽化による課題が増していますが、安全確保を優先し、定期的な点検と整備、必要に応じた利用規制なども市と協議して進めます。特に新座市児童センターの老朽化は深刻度を増しており、設備の入替えや大規模な修繕が必要との業者の助言も受けています。こうした問題を抱える中での安全な運営のために、これまで以上に市との連携を図ります。

令和5年度から始まる「こども基本法」に基づく「こどもまんなか社会」の推進に、児童センターに求められる役割を踏まえ、各館の特性を活かした事業展開や連携、SNSを用いた情報提供の強化など、サービスの質の向上に引き続き取り組みます。

**【過年度の評価結果まとめ】**（所管部記入）

評価区分	30年度 (1年目)	元年度 (2年目)	2年度 (3年目)	3年度 (4年目)	4年度 (5年目)
指定管理者の自己評価	A	A	A	A	S
市の評価	A	A	A	A	S